

# まちの話題

南

## 南国ムードに染まった5日間 2011ハワイアンフェスティバル



8月22日～26日にかけて、2011ハワイアンフェスティバルin吉良ワイキキビーチが開催されました。県内外から35チーム、約1,200人のフラダンス愛好家が出演し、華やかな衣装で踊りを披露しました。夜からは、ポリネシア・カルチャー・センターのダンスチームによるショーが行われました。本場のポリネシアダンスやファイアナイフダンスショーなど、迫力ある演舞に会場は大きな歓声と拍手に包まれました。5日間で延べ約7,900人が訪れ、南国ムードに染まった吉良の夏を楽しんでいました。



気

## 分は本物の消防士！ 児童が一日体験入署



8月23日、市内の26小学校の5・6年生でつくる少年消防クラブ員151人が、市消防本部に一日消防士として体験入署しました。

レンジャー体験ではロープの上に体を乗せて渡るセーラー渡りに挑戦。懸命にバランスを取りながらロープを握って進む姿に「頑張れ！」と声援が飛んでいました。放水体験では、水圧にびっくりしながらも、ホースを構えるその真

剣な表情は消防士さながら。ほかにも、三角巾を使った止血法を学ぶ救急体験や、地震の揺れを体感できる地震体験車「なまず号」への乗車、グループ対抗バケツリレーによる初期消火競技などを行い、参加した児童らは楽しみながら防火や防災への意識を高めていました。



壮

## 大なスケール 三河一色大提灯まつり



8月26日・27日の両日、諏訪神社（一色町）で三河一色大提灯まつりが行われました。この祭りは16世紀頃に田畑などに被害をもたらした海魔退散のためにたいた大かがり火が起源。後に提灯の献灯へと替わり、氏子たちがその大きさを競ったため、現在の大きさとなりました。26日の午前中から祭りの準備が始まり、最大で直径5.6m、長さ10mもの提灯12張が人力で吊り上げられました。日没を迎え、火のともった提灯を一目見ようと多くの人が神社を訪れ、その数は2日間で約10万人となりました。



# できごと

8/16 ▶▶ 9/10

## 8/20 第57回 市民体育大会水泳競技大会



平坂中学校プールで第57回市民体育大会水泳競技大会が開催されました。自己ベストや大会新記録を目指して熱戦が繰り広げられました。

## 8/28 白瀬日本南極探検隊100周年記念プロジェクト



吉良町公民館で南極OB会東海支部幹事長加藤好孝氏による講演会「白瀬隊長と南極観測事業」が行われました。南極の氷や石なども披露され、来場者は珍しげに観賞していました。

## 9/4 一色・吉良・幡豆文協展

第10回一色・吉良・幡豆文協展が吉良町公民館で開催されました。力作が展示されており、会場を訪れた人は作品を熱心に見ていました。



## 9/4 第22回洋舞フェスティバル 2011

文化会館大ホールにて、ジャズダンスやフラメンコ、クラシックバレエなど日ごろの練習の成果が披露されました。



## 9/10 第10回はず夢ウォークと秋の幡豆・友引市

参加者は西幡豆駅をスタートし、初秋の風を感じながら緑したたる山里を歩き、ゴールの後には秋の幡豆・友引市を楽しみました。



## 干

### 潟の生物を観察しよう！ 「親子で海上探検」を開催

8月27日、東幡豆海岸で「親子で海上探検」が行われました。当日は大潮の前日。大きく潮が引いて現れた干潟で、参加した親子ら34人はカニやヤドカリを観察したり、アサリを掘ったりしていました。



塩分濃度に急激な変化があると巣穴から飛び出す性質を利用したマテガイの捕獲にも熱中し、巣穴に塩を振りかけ、頭を出したところをつかんで引き抜くと、独特の細長い形にみんな驚いていました。



また、前島から監督測量船しおさいへ乗船して海から海岸線のまち並みを眺め、参加者らは豊かな自然を身近に感じていました。

## 学

### 生が佐久島で改修に挑戦 西渡船場待合室リノベーション



9月5日から7日にかけて、佐久島の西渡船場待合室の改修が行われました。改修を行ったのは名城大学で建築を学ぶ学生の皆さん。改修に携わるのは初めてという皆さんは、「考えていたよりも大変」とその難しさを感じつつ、朝から深夜まで作業を続けていました。

待合室の壁紙を塗り直したり、新たに作った棚などを設置したりし、また椅子や机にも彩色をして内装を一新。「島民の方や島を訪れた方に、乗船までの時間をゆったりとくつろいでほしい」と、白を基調にした落ち着いた雰囲気待合室が完成しました。装いの変わった待合室を、一度見に来てみてはいかがでしょうか。

